

今、人を助けたい人 募集

骨髄バンクドナー登録

白血病など血液の病気の治療に造血幹細胞を提供するドナーとして日本骨髄バンクに登録している人は今年二月末現在、約五十三万人。ただ、実際にはドナー側の事情で提供に至らないことが多い。同バンクは行動経済学者の協力を得て、この課題の解決に乗り出した。



大竹文雄
大阪大特任教授

▽提供に至らぬ理由

骨髄バンクによると、移植を希望し骨髄バンクに登録する患者数は近年二千二百人前後で推移しており、ドナー候補者が一人以上見つかる確率は計算上96%になる。

だがバンクを通じて移植を受けた人は全体の六割弱だ。バンクを通じ移植が受けられなかった人の30%は亡くなり、8%は病状が悪化。登録から移植まで平均的に約四カ月かかり、待つ間に亡くなる人も多いという。

一方、患者と白血球の型が合うドナー候補者が見つかったも、全体の61%はごく初期の段階で移植を断念してい

る。

その96%は候補者側の事情で、「健康理由」が35%を占め、それ以外の主な理由は「都合が付かない」「連絡が取れない」「家族の同意が得られない」などだった。

▽特徴を分析

移植を増やす方法を探るため、厚生労働省研究班(代表・福田隆浩国立がん研究センター中央病院造血幹細胞移植科長)に行動経済学者の大竹文雄・大阪大特任教授が参加。ドナー候補者になった四十歳未満の人に質問を送り三千二百六十一人から回答を得て「提供に至る可能性の高い人」の特徴を分析した。

同大社会経済研究所の過去の全国調査で得られた一般人の特性と比べると、ドナー候補者には一般人よりも「利他的」「リスクの許容度が高い」という傾向がみられた。提供に至る確率が高い人には①定期的に献血している②臓器提供の意思表示をしている③有給のドナー休暇があるか有給休暇が取りやすい職場で働いている―という特徴があった。

行動経済学者の協力で新手法

周囲の影響を受けやすい「同調性」のある人はドナー登録する可能性が高い反面、提供依頼があっても提供しない傾向があった。

▽最初に説明を

ドナー登録した人のうち提供した人は提供しなかった人 비해「今を大事にする」という傾向が強くなり、登録時に「提供の機会がすぐに来る」と思っていた人の方が、すぐには来ないと思っていた人 に比べ提供してくれていることも多かった。

「ドナーになるのは他の予定を後回しにしても今、人を助けたい」という人。初めに「提供の機会がすぐに来る可能性が高い」と説明し、それでも登録してくれる人を増やすべきだ」と大竹さん。

骨髄バンクの小島勝広報渉外部長は「これまで、提供まで十年かかる人もいたという説明をしてきた。今後は登録を呼び掛ける中で、すぐに提供する機会が来る可能性がある」ということを伝えていきたい」と語る。

同バンクは、提供の可能性が高い人の特性をまとめた登録者募集の動画を制作し、九日からインターネット上で公開。ドナー休暇制度の創設など提供しやすい環境づくりも引き続き訴えていく。



日本骨髄バンクが制作したドナー募集動画の一場面(同バンク提供)

- 日本骨髄バンクのドナー募集の新たな呼び掛け**
- 降水確率50%でも傘は持っていないか
 - 公園のごみはついつい拾って捨てる
 - 同じことをしなくても平気
 - 定期的に献血をしている
 - 臓器提供の意思表示をしている
 - 今すぐにも人の役に立ちたい

「はい」が四つ以上だったあなた！骨髄バンクにドナー登録しませんか？

(同バンクの動画を基に作成)